第 43 回

大阪市都市景観委員会

議 事 録

日	時	平成 27 年 5 月 26 日 (火)
		午前 9 時 30 分～午前 11 時 44 分
場	所	ヴィアーレ大阪 4階 ヴィアーレホール

大阪市都市景観委員会（第43回）

1. 開催日時 平成27年5月26日（火）午前9時30分～午前11時44分
2. 開催場所 ヴィアーレ大阪 4階 ヴィアーレホール
3. 出席者

(1) 委員（敬称略）

委員長	澤	木	昌	典	
委員	阿	部	昌	樹	
	岡	田	昌	彰	
	加	賀	有	津	子
	中	嶋	節	子	
	橋	寺	知	子	
	山	納		洋	

(2) 市側

横山 建設局管理部路政課長

(3) 府側

戸田 住宅まちづくり部都市空間創造室長

事務局（都市計画局）

川	田	都市計画局長
安	藤	開発調整部長
友	田	開発調整部都市景観担当課長
中	西	開発調整部都市景観担当課長代理
松	崎	開発調整部開発誘導課 担当係長
松	村	開発調整部開発誘導課 担当係員

4. 会議次第

- 1 開 会
- 2 議 題

- ・ 今後の景観施策のあり方について
- ・ 都市景観資源検討部会の継続設置について

- ・ その他

3 閉 会

〔配付資料〕

- ・ 資料 1 - 1 今回の主な論点
- ・ 資料 1 - 2 今後の景観施策のあり方について
(参考 4・5) 〔委員限り資料〕
- ・ 資料 1 - 3 建築美観誘導路線における屋外広告物の設置状況 〔委員限り資料〕
- ・ 参考資料 1 - 1 今後の景観施策のあり方について 諮問文 (写し)
〔委員限り資料〕
- ・ 参考資料 1 - 2 第 4 2 回都市景観委員会等での主な委員意見 〔委員限り資料〕
- ・ 参考資料 1 - 3 市政モニターアンケート (案) 〔委員限り資料〕
- ・ 参考資料 1 - 4 建築美観誘導基準 〔委員限り資料〕
- ・ 資料 2 都市景観資源部会の継続設置について
- ・ 参考資料 2 都市景観資源検討部会運営要綱

5. 議事の概要

○友田都市景観担当課長

おはようございます。定刻が参りましたので、只今より、第 4 3 回大阪市都市景観委員会を開催させていただきます。

私、本日の進行役を務めさせていただきます、大阪市都市計画局開発調整部都市景観担当課長の友田と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、傍聴の方に申し上げます。携帯電話につきましては、電源を切るか、マナーモードに設定いただきまして、審議の妨げにならないように、御協力よろしくお願ひいたします。

本日の都市景観委員会につきましては、委員 11 名中 7 名の御出席をいただいております。それでは、本委員会の開会に当たりまして、大阪市都市計画局長の川田より、一言ご挨拶させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○川田都市計画局長

おはようございます。都市計画局長の川田でございます。

お忙しい中本日までご出席いただき、大変ありがとうございます。

大阪市が昭和57年に建築美観誘導を始めて三十数年、それから、景観計画を策定して約10年、この間、建築美観誘導も一定の成果が出ているところもあれば、なかなか思いどおりには動いていないところもございますし、景観計画についても、御存じのように、かなり精神規定にとどまっているところもあります。今年は、いわゆる1925年に大阪市が東京市を抜いて、人口が1番になった大大阪というところから、ちょうど90年目になります。一つの節目の年でもあるので、これからもう一度大阪をより良くしていくために、どういう施策を打っていったらいいかを私から各部署に申し上げます。

その中で、都市の格を高めていくという観点から、景観は非常に大事だと実感しております。大都市ですので、中小の都市のようにピンポイントでテーマを決めてコントロールしていくのは、なかなか難しいところもあるんですけども、今後、いろんなプロジェクトの動きもある中で、できるだけメリハリをつけながら、あるところはぐっと規制をし、あるところは誘導して、インセンティブも使いながら、よりよい景観をつくっていきたくと。

こういう発想から、昨年12月に、今後の景観施策のあり方について諮問させていただきました。寒い中、1月、2月の現地調査ということで、建築美観誘導路線沿道を中心に御視察いただきまして、そのときにいただいた御意見を今日参考資料の中につけさせていただきます。

今後、年内ぐらいを目途に一定の方向をまとめていただければと思っておりますが、拙速に議論をして中途半端な形で終わるといってもまずいと思っておりますので、闊達な御議論をいただき、よりよい景観施策をつくっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○友田都市景観担当課長

ありがとうございました。

それでは、議事に入ります前に、お手元の配付資料の確認をさせていただきたいと思っております。まず、1番目に第43回大阪市都市景観委員会の議事次第を置かせていただいております。続きまして、本日の出席者リスト、その裏面、配席図となっております。

続きまして、資料1-1が今回の主な論点。資料1-2がA3の資料で、今後の景観施策のあり方について。この中で、参考の4、5については、委員限り資料とさせていただきます。続きまして、資料1-3、これもA3の資料です。建築美観誘導路線にお

ける屋外広告物の設置状況。これも委員限り資料とさせていただきます。なお、1-3の資料につきましては、A3の資料ですと小さくなってしまっていますので、今、私の後ろに、大きくロール紙で印刷したものがございますので、会議後に、お時間が許せば御確認いただければと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、A4でクリップ留めしていると思います。参考資料1-1、今後の景観施策のあり方についての諮問文の写しでございます。参考資料1-2、前回の第42回都市景観委員会での委員の皆様の見解をまとめたものでございます。参考資料1-3が市政モニターアンケートの案でございます。参考資料1-4が建築美観誘導基準でございます。参考資料につきましても、委員限り資料とさせていただきます。

続きまして、資料の2、A4で1枚物ですけれども、都市景観資源検討部会の継続設置について。参考資料の2としまして、都市景観資源検討部会の運営要綱でございます。

以上でございます。もし、不足がございましたら事務局にお申しつけください。よろしいでしょうか。

それでは、これからの議事進行につきましては、澤木委員長にお願いしたいと思いますので、よろしく願いします。

○澤木委員長

皆さん、おはようございます。よろしく願いいたします。

議事に入ります前に、本委員会運営要綱3の(3)に基づきまして、議事録署名人を指名させていただきたいと思います。本日は、中嶋委員と橋寺委員にお願いしたいと思います、よろしく願いいたします。

それでは、議題に入っていきたいと思いますが、議題が二つ、その他も入れますと三つございますが、上段に書かれております、今後の景観施策のあり方について、これにつきましては、少し議論に時間を割きたいと思いますので、2番目の都市景観資源検討部会の継続設置について、こちらから議事を進めさせていただきたいと思います。よろしく願いします。

それでは、都市景観資源検討部会の継続設置について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

資料説明

○澤木委員長

ありがとうございました。

ただいま、事務局より説明がございましたけれども、何か御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

御質問がないということですので、事務局から御提案いただきました都市景観資源検討部会につきましては、継続設置をさせていただきたいと思っております。御異議ありませんでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、この都市景観資源検討部会を継続的に設置するという御了承いただきましたので、大阪市都市景観条例施行規則第19条の規定により、部会の委員については、委員長が指名するとなっておりますので、私から、僭越ながら部会委員について提案させていただきます。

本日、御欠席ですけれども、部会長は下村委員にお願いしたいと思っております。それから、この前の期から委員をしていただいています、今日、御欠席ですけれども田中みさ子委員、それから、御出席の橋寺委員、それから、今期から新任で着任いただいております岡田委員、計4名の方に部会委員をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。お忙しい中、現地を見に行ってください、それを取りまとめていただくような仕事がございますけれども、よろしくお願ひいたします。

今年度は、先ほどの資料2の(3)にございますように、生野区、淀川区、阿倍野区、この3区について、現地調査を半日ぐらいの行程で6回ぐらい、部会は4回ぐらい開くという予定になっておりますけれども、現地調査を部会の4名の方だけで行いますとなかなか御負担が大きくなりますので、これまでこの委員全員で現地調査をしてきた経緯もございますので、現地調査の際にはぜひ、部会の方々以外の委員の方々も協力できるような体制をとっていただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

○事務局

はい、わかりました。そうさせていただきます。

○澤木委員長

じゃ、部会の先生方にはこの本委員会と部会の両方ということでかなりの御負担をおかけすることになりますけれども、よろしくお願ひしたいと思っております。

本日御欠席の下村委員と田中委員につきましては、事務局のほうで御了解をとっていただくよう、よろしくお願ひいたします。

○事務局

下村委員と田中委員につきましては、事務局から御了解をいただき、委員長に御報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○澤木委員長

暑い時期に現地を見に行くようなスケジュールが多く、スケジュールリングも、いろいろ御苦労されますけれども、よろしくお願いたします。

それでは、今日の大きな議題であります、今後の景観施策のあり方についてに入りたいと思っておりますので、資料がたくさんございますけれども、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局

資料説明

○澤木委員長

ありがとうございました。

資料1-2に基づきまして、今後の景観施策のあり方について、事務局から説明をいただきました。ほかの資料1-3等はこれの補足資料ということで、また、ご覧いただければと思っておりますけれども、資料1-1に論点を四つ、上位のものから順番に並べていただいて、このあたりを中心に御意見をいただきたいというのが今日の趣旨でございますが、私なりにこの景観委員会、景観法の活用以前から長いこと関わってきていますので、そういう点から少し整理をしますと、景観法ができて今の景観計画を定めるときに、一つは、大阪市域全域を景観計画区域という形で網をかけることとしました。それ以前から条例、それから、建築美観誘導といったような形で、運用してきている部分がございますが、これは、大阪市の景観政策の方向を推進してきている部分ですので、景観計画の中でもそれをコアとして引き継いでいく形でやってきております。

ただ、市域全域を景観計画区域にしたんですけれども、美観誘導路線といった地区以外をどうしていくかというのは、それぞれの地域でどんな景観形成をしていきたいか、各地域地域で考えていただいて景観計画に位置づけていこうという、阪神淡路の復興の際に、2段階の復興事業といいますか区画整理をしましたけれども、あれに似た形で、とりあえず全域に網をかけておいて、底上げをしながらそれぞれの地区の特性を伸ばしていこうという形の発展型の景観計画をつくってきたという印象を持っております。

今回、景観施策を見直すに当たって、一つは、大阪市ですずっと進めてきている美観誘導

等について、路線で一律に規制をしてきているんですけども、路線の中でもゾーンによって特徴が違っている部分が含まれていますし、そういう中で基準に適合していないものがたくさん見られる地域もあって、今のままの誘導の仕方でのいいのかという部分が出てきている。

それから、大きな目標としての基本目標にアメニティと美しさという言葉を使っているんですけども、これが今、グローバル時代の大阪の中で、あと、全国の中でも地域間競争をしていくような時代の中で、アメニティ、美しさが大阪らしいのかといった部分もありまして、一度、全体を体系的に見直していこうというのが、今回の動きだと思います。

景観法の活用をし出してから10年近く経つ、そういうこともありますので、今後の景観施策をしっかりとしたものにしていくために通しで見直していこうということで、論点も1番が一番上の基本目標といったところの大阪らしい景観は何で、どんなところを目指すのかというところに御意見いただきたいという部分。

それから、2番目の今後の施策の展開の考え方についてというのは、資料1-2の1ページの進め方のチャートの位置、真ん中の一番下にありますけれども、大阪市域をA、B、Cという3ランクぐらいに分けて考えて、Aが先ほどのお話で言えば、これまで美観誘導等で重点的に進めてきた部分ですけれども、そういったエリアをイメージした特定エリアという概念。それから、Bが地域主導で地域特性を生かしたと位置づけてますけど、これが、そういった底上げというか、地域でいろんな景観に関する活動が起こってきたり、あるいは、景観だけではないですが、いろんなまちづくりが起こっているところをうまく景観マネジメントしていくような、これから伸びていくような地域。それから、Cが、そのほかの白地といいますか、市域全般で景観水準を底上げていく、こういう3層構造で施策の展開を考えていこうという、これについての御意見をいただきたいというところ。

それから、3番目が特定エリアっていった場合に、どこを位置づけるのか。これまでの美観誘導路線もありますけれども、それ以外にもいろいろ大阪の特徴として育ってきている場所、あるいは、地域で取り組まれている場所もある。そういう位置づけ、この3番につきましては、特定エリアというのをどういう性格にしていくのか、建築美観誘導というものが今までは前面にあったんですけど、そうでない特定エリアといった考え方もあるというところも含まれていると思います。

それから、4番が建築美観誘導基準に不適合なものが多いエリアというのは、これまで

の誘導基準に少し硬直的な部分があったのではないかとということも含めて、美観誘導のあり方、ゾーニングの話とか、ゾーンごとの基準をもう少し特性に合ったものにしていくとか。そういうあたりについて、御意見をいただきたいというところ。

結構大きな柱が四つ論点で上がっておりますので、このあたりで御意見をいただきたいんですけども、1から順番に御意見いただくということではなくて、皆さんが一番、御関心とか御意見をお持ちのところ、どこからでも結構ですので出していただきまして、上位から下に下がるという決め方もありますけれども、3番、4番とか細かいところでいろいろ御意見いただきながら、そういう中で、1番の大阪らしいって何なのかっていうのを議論していくというやり方もあると思いますから、あまり、どこからってという指定は委員長でしませんので、御自由に御意見いただけたらと思います。

今日、まだ、特に取りまとめるということではなくて、御意見をいただきながら、御欠席の4名の委員の方々にも事務局のほうで御意見聞いていただいて、それらを合わせながら、あと、2回ほど議論していこうと思っておりますので、よろしくをお願いします。

前置きが長くなりましたけれども、資料1-1、1-2につきまして、忌憚のないところをどこからでも結構ですので、御意見いただければと思います。よろしくをお願いします。

じゃ、何か、岡田先生がスタンバイしているような雰囲気なので。

○岡田委員

順番は特に、思いついたところからでよろしいんですよ。

いろいろ論点はあると思うんですが、このA、B、Cの中のCの底上げということですね、これ、実は大事というか、もしかしたらこの施策の中に、大阪らしさを高めるような要素が入っているのかなと思ひまして、特に、市民の景観意識の啓発を行っていくということが書かれております34ページのところです。それから、一番気になったのは、5番目の橋梁とか高速道路などの大規模構造物に対する配慮をするということなんですけど、これは恐らく、Cの部分だけではなくて、恐らく、AとかBに対応する地域においても非常に大規模に介入してきているというのが特徴だと思うんです。

例えば、中之島では、阪神高速があれだけの大きなスケールで、水辺にどっと大規模にあるわけですね。ですので、あれをどう捉えるのかということなくして、景観を捉えていくというのは困難なぐらいの、非常に大きなスケールで私たちの目に迫ってきますので、5番の橋梁、高速道路という考え方は、恐らく、ほかのところでも考えていかなければいけないと思います。

あと、このすぐ近くの堺筋本町の阪神高速が通っているところなんかもありますので、その辺のスケールと景観の関係というのは、考えてみてもいいと思いました。

○澤木委員長

ありがとうございます。

34ページをご覧いただいて、御意見を踏まえていただくとわかりやすいと思いますけれども、34ページのA、B、Cの、Cの部分の⑤に、岡田先生の御専門の土木分野の橋梁、高速道路、こういった大規模な土木構造物を景観計画における工作物の届け出の対象に追加していくという記述があるんですが、こういったものがAの特定エリアとか、B、こういうところでも配慮が必要という御意見ということです。ありがとうございます。

そのほか、どんどん出していただければいいと思いますので。

では、加賀先生。

○加賀委員

先ほどの34ページをご覧いただきながらがいいかと思いますが、Bの地域主導による地域特性を生かした個性ある景観形成ということで、御堂筋の淀屋橋、本町とか、中之島西部とか、いろいろ民間の活力を使ってやっているところがあると思いますけれども、それも、ボランティアベースではなくて、やはり、景観形成っていう、都市にとってよりよい活動をしている団体に対しては、それなりのインセンティブを与えていくという両輪がないと、地域の、民間の活力が続かないんじゃないかということは、すごく危惧しているところでして、ここでも、②で一定の条件を満たした場合に、公的空地の利活用などインセンティブの導入というのは、これはぜひ、そういう観点で、道路占用を減免とかいう形で公共空間をできるだけ利活用していくとか、そういう施策をとっていくと。

ただ、その中で、やはり、民間の団体の担保といいますか、しっかり活動ができる担保をちゃんととることも必要になってくると思いました。そうなると、景観形成だけの話ではなくなってくると思いますけれど、そういうところは、まちづくり、エリアマネジメントの考え方も含めながら、例えば、公共空間の利活用がきちんとできているかというチェックや、また、景観形成活動もきちんとしているかといったエリアマネと絡んだような形の団体支援と、チェックができる仕組みも含めて考えていく必要があると考えます。

あと、もう一点、大阪らしいという、この言葉、私自身もすごく、どういうところがあるのかを考えていまして、3ページで、大阪らしい景観の印象ということで、いろんなキーワードを挙げていただいているのはすごくいいかなと思います。一番右側の「雑多な・

派手な」とあるのは、いい面もあれば、このあたりのとらえ方も議論があるのかなと思いますが、大阪らしさを見せるところと、変えていったほうがいいところをどういう形で考えていくのかというのを、私自身もこの場で考えていけないと思っているところと、あと、大阪らしい景観の印象を、どのような形で伸ばしていくのか。今の現状を維持していくようなところでも、先ほどの、特定エリアの考え方になると思いますけれども、そこを維持していくという考え方のエリアなのか、もっと向上させていくというか、今の状況を変えていくという、そういう考え方なのかによっても、かなり違うのと思いますので、そこも議論していく必要があると感じます。

○澤木委員長

ありがとうございます。1点目は34ページのBに関して、民間といいますか、地域主導をボランティアな部分だけに期待するのではなくて、しっかりとインセンティブをつけていく部分と、一方で担保していく部分ですね。こちらをうまくつくっていく。そういう意味では、エリマネが大事だというお話をいただきました。

このあたり、グランフロントとか御堂筋では、B I Dみたいな制度との連動も動いていくと思いますので、その辺も含めて、ほかの地域にどう広げていけるのかということも考えていく点かなと思っています。

あと、国交省が数年前から大街区化みたいな話を言ってますよね。細かい街区をまとめることによって、その中を貫通している道路部分を広場に変えてしまうとか、通過交通なんかをしてですね。または、その面積をほかに持って行って、公共空地で使うみたいな形で、公共用地を地域の活性化とか、豊かな公共空間の創出に使っていくというやり方も出てきているようですので、そういうものも併用していけると、地域主導だけではなくて、公共が何か変換することで貢献するような組みやすさも考えられる場所もいろいろあるかもしれないと思っていますけれども。

国交省の例示によると全国で30事例ぐらいあるんですけど、大阪も三つぐらい入ってるんですね。お初天神の参道がビルを貫通しているではないですか。ああいう事例が挙がってますので、そんなテクニカルな部分も活用できたらいいと思います。

あと、二つ目は、3ページの大阪らしさに関して、上に例示で書かれている大阪らしい景観の印象というところについて、御意見もいただきました。これで大阪らしい形容詞なのかというのは難しいところですけど、この辺も御意見いただければと思います。

一番、右側、「雑多な・派手な」というのは、少し色も変えて、どちらかというとなガ

ティブな印象で書かれているというか、これが逆に、大阪のプラスみたいなのところもあるので、別の言い方でといいますか、1ページのチャートのほうで書いている、真ん中の四角の真ん中辺に大阪らしい目標というところに、二つ目で人の営みが見える活気あふれる大阪の景観、この活気あふれるという部分が、先ほどの3ページでいうと、にぎわいという部分かもしれませんが、この雑多な・派手なというあたりに、エネルギーの塊みたいなものを感じるエネルギッシュな部分というのが活気で、かなり、この二つが、事務局で書かれている二つ目の項目にも関係しているのかなということで、この色を変えている部分をプラスに持っていく部分が、何か大阪らしさの一つのヒントなのかなと思ったりしました。ありがとうございます。

そのほかの委員の方々どうぞ。では、中嶋委員。

○中嶋委員

大阪らしい目標というお話が出ましたので、1ページ目の大阪らしい目標で、新たに二つ、風格ある大都市大阪の景観をつくるというのと、人々の営みが見える活気あふれる大阪の景観をつくると、二つ挙げていただいて、そのとおりだと思います。今、ちょっと、東京都の景観計画を見ると、東京都は、美しく、風格のある東京景観をつくるというのがキャッチで、それ1文だけなんですけれども、やはり、二つに分かれていると、どうしても統合できないでいる大阪のジレンマみたいなのが、そのままキャッチに出ているような気がして、風格あるというのは大都市として非常に重要なんですけれども、そこをプラス、2行目に書かれている活気であったり、営みみたいなキーワードがやっぱり一緒になったほうが、私はいいのではないかというふうに思います。

例えば、にぎわいと風格のある、風格とにぎわいのある、あるいは、風格と活気あふれるとか、何か、一言のキャッチで大阪らしい都市のイメージをつくる目標があっていいかなというのが一つ目です。

あと、もう一つは、2番目の論点に書いていただいているA、B、Cの考え方ですけれども、こういうテリトリーの考え方、どういうふうにエリアを把握していくかという考え方はこれでいいかと思うんですけれども、目標とエリアの分け方の間に、大きい大阪としての都市景観の全体像みたいなものが抜けている気がするんです。

先ほど、川の話も出ましたけれども、大川を中心とする川の軸であったりとか、水の軸みたいな大きな景観軸であったりとか。あるいは、上町台地から大阪湾を見下ろすような大きな景観軸であったり、大阪城もありますし、あと、まちの中の御堂筋、もう少しスケ

ールが小さくなりますけれども、もちろん、景観ゾーンということで、景観計画の中で書かれているんですけども、拝見すると、ゾーン分けはしているんですけど、ゾーンの特性まで書いていなくて、むしろ、官主導でやっているところとか、民間が頑張っているところっていう、そういう分け方でゾーンの書き方がされていて、そうではなくて、やはり、地域的というか、地形的な性格、あるいは、歴史的、文化的な性格からそれぞれの持っている景観の大きなまとまりみたいなものを、目標とエリアを分ける間にきっちりと整理して、その上で、今、熟度が高いとか重点的に景観を形成していかなければいけないエリアをきっちりとゾーニングしていくとか、線引きをしていくことが必要なのかなというふうに、大きい目標と個別のもの間がつながっていないのではないかという、そこがきっちりストラクチャーというか、構造化されていくと、それぞれのエリアが何を指すのかが、これからの大阪の都市景観の中ですごくはっきりするのかなと思いました。

あとは、ニューヨークにいたときに、ニューヨークってそんなにマンハッタン自身大きなところではなくて、大阪に似ていると非常に言われるんですけども、パリに似てるという方もいるんですけど、ニューヨークの場合はかなり細かいゾーンできちっとすみ分けして、例えば、タイムズスクエアだと、どういう景観をつくるのか、はっきりした像をつくっていて、あるいは、セントラルパークだったらどうだとか、グリニッジだったらどうだという、ヒストリカルなものを守るところとグリーンを守る、自然景観を守るエリアというのをきっちり分けた上で、全体として、ニューヨークとしてどういう景観をつくるのかというコミュニティがあって、非常に力を込めているコミュニティがあるんですけど、何かそういう全体をとらえる視線の中で、エリアをきっちりと位置づけていくことを、この間につないでいただければと思います。

○澤木委員長

貴重な意見ありがとうございます。全体を空間的にというか、景観の構造的にちゃんととらえた上でA、B、Cを位置づけるべきだという御意見をいただきました。

それと、もう一つは、キャッチフレーズは、一言で表すほうがわかりやすいというか、二つ、三つ並んでいると、どれかわからなくなるという。

ありがとうございます。

引き続き、橋寺委員、お願いします。

○橋寺委員

似た話かもしれませんが、大阪らしさですが、大阪にしかない、大阪を一言で表す

というのは難しく、大阪にしかない特徴というのはないだろうなど。それは、もうどこの都市でもそうで、いろんなものが積み重なって、それぞれの都市のらしさだと。3ページの表は、派手なとか、大阪らしさのすごく大きいところを担っているものもあって、2次元的なマトリックスで示すのが多分無理ではないか、3次元的にすると、いいのかなという感じがしました。

それが一つで、こういう形容詞ですごくぴったりのものを探し出すのは難しいので、いろいろ出しながら、それを立体的に考えていくといいのかなと思いました。それと、1ページで、地域主導のところなんですけれども、インセンティブが必要というのは、本当にそうだと思いますし、今回の資料でも挙がっている、まちづくり団体によって景観形成がなされているところというのは、多分、景観の施策ではなく、HOPEだったら住宅や住まいという感じで、他施策でしていることもあって、そういうものと横のつながりで連動していかないとだめなんではないかなと。他施策からちゃんとインセンティブが出ている場合もありますし、そういうのに乗っていく、あるいは、市民から見たときは多分、部局がどこだなんていうのは関係なくて、そういうのとうまく連動していくというのがよりよいし、効率がいいのではないかなと思いました。

今回の資料で、それぞれのエリアで特徴を挙げているところに、都市景観資源として登録されているものや、生きた建築ミュージアムで選出されているものが挙がっていますし、大阪は、実は登録文化財もかなり多いですし、そういったいろんなところでマークされているものもうまく取り入れていくのが大事で、その辺も横のつながりを生かすことが必要ではないかなと思いました。

それと、さっき、ストラクチャーが必要だという御意見があったとおり、大阪の特性を考えたときに、筋というか、道路でやっぱり色が出るというのも一つあるので、今まで、筋ごとに特徴を見てきたというのは、そういうことだったと思うんですけれども、違反しているものを洗っていただくと、南のほうで違反が多いというのは、縦の筋のストラクチャーと同時に、南北での色合いの違いみたいなのが出ているので、そういう分析をしていただいて、やっぱり、1キロ以上を一つの基準でというのは無理なところもありますし、まち同士、横のつながりもあってエリアができていくというのもあるので、それに応じた、不適合が多いからそれに合わせていくんではないんですけれども、それぞれの、不適合という、何となく悪い感じがするんだけど、それはそれでまちの一つの特徴がそこに出ているということもあると思いますので、そういうのでエリアができていくというか、も

う一度考えてみるということが必要なのではないかなと思いました。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございました。

3点ほど、御意見いただいたと思いますけれども、大阪らしさはなかなかこういう形容詞だけで、表すのは難しいんですけれども、もう少し立体的に考えていくという、この辺、もう少し具体的なところも教えていただければと思います。

それから、地域主導っていう場合のインセンティブの一つとして、いろんな施策との連動、それから、地域にとっては景観施策というのは多分、One of themですので、地域自身が地域をどうしていきたいかという、まちづくり活動っていいですか、そういう中で、景観を位置づけていくという視点が大事だという御指摘なのかなと思います。

それから、地域のいろんな資源、登録文化財等々、こういうものもうまく取り入れていくという視点が必要だという御指摘。

それから、構造化の話でいうと、筋っていう、南北の路線ですよ。これが一つの特徴でもあるけれども、ストラクチャーの中で東西、あるいは、北、南っていう拠点性ですかね。そういうところとの関係も見ながら考えていく必要があるという。今、おっしゃったことは、中嶋委員がおっしゃったような構造化ができてると割と位置づけがしっかりと見えるんだと思います。

大阪の、特に、船場、島之内のあたりは、もともとが大阪城のほうを向いた東西の通りが江戸時代はメインだったんですけれども、それが近代以降、南北の筋を経済軸にという形で整備をしてきていて、今は、南北軸のほうは陸線は強くて、東西のまちは、名前では残ってますけれども、なかなか薄くなっているんですが、まちの用途といいますか、商業系の用途がどういったところに分布しているかというあたりとの重なり合いで、南のほうで違反が多いといったような形が出てきてますので、そういう地域の構造みたいなものもしっかりとらえていく必要があるのかなというふうに、私も思います。

では、そのほか。山納委員。

○山納委員

以前の会議で、誰のための景観かという話をしたことがありました。実際に、現地視察を2回まわってすごく感じたことなんですが、そこを誰が開発しているのかということによって、どうして違反をするのか。どうして不適格になっているのかというのがすごく見

えた気がいたします。

例えば、なにわ筋のほうにいくとマンションが多いと。マンションメーカーのモチベーションで考えたときに、一戸でも多く部屋をとりたい。だから、4 mもセットバックされたらかなわんって言うてるように見えます。御堂筋の南のほうのブランドストリートあたりにいくと、セットバックをしていなかったり広告が大きかったりするんですが、ブランドショップが道に、自分のブランドを主張するような形で出ていっていると。それが、景観の規制なんか受けなくても、一番いいもの、一番すてきなものを僕らはつくるよって違反しているように見える気がします。御堂筋の北新地あたりですとか、四ツ橋あたりにいくと、北新地に来てくださいって言いたいから違反して、看板を突き出しているふうに見えるところがあったり、あと、御堂筋の北のほう、別のところは、既存不適格ですけど、建物がそもそも古くて10 mも間口がないし、6階建てではないと。でも、今みたいに車がびゅんびゅん通る前は、これで人が歩いてくれて、いい感じのまちだったんだって言うてるように見えるとか。看板でも、昔からやってる薬屋が今さら言うなっていうような、昔からこうなんだって違反しているようなものがあったり、あとは、堺筋の南のほうを見ていると、外国人がすごく来ると、バスも止まると。だから、そこで買い物をしてもらおうと思ったら、これぐらい元気よく出していかないとって言うてる違反に見えるとかいうのが、個別に違反とか不適格というものの中にあるような気がして見ていました。

それは、誰のための景観かというときの話として、きれいに見えるようにしましよっっていうモチベーションと、そこを開発して何かをしていこうという人にとって、やりやすい場所になっているかどうかということ。マンションが増えていくんだったら、このまちの規制は、こういうふうにしたほうがいいのかということであったり、商業が強いとか、外国人が買い物もしてくれるっていうところであれば、商業を強くするために、これは規制を緩めるという方向にいくのかもしれませんが、それを認めていくということを見えていくと。

さっき、1キロ以上同じルールでということは、現実的ではないというお話がありましたが、そういう細かい、どういう人がこのまちを使っているのかをよく見ていくということと、経済とか商業で大阪が潤うこととの痛し痒しがあるんだと思うんですが、この部分では、そういうことを認めていくことがあるのかなという気がいたしました。

余談みたいな話ですが、先週東京の新橋のガード下を歩いたんですが、金曜日の夜に。まあ、すごいサラリーマンの天国になっていて、みんながその辺で飲んで、広がって、公

園にまで座り込んでビールを飲んでいるっていう、大分、雑多、派手といいたいでしょうか、活気があるっていうんでしょうか。そんな風景で、あんなところを東京は全く売りにはしてないと思うんですけど、働く人にとっては、あの新橋ガード下っていうのはとても大事なところなんだろうなと。

大阪において、新橋ガード下ってどこなのかっていうと、あそこまで強烈なところはあんまり思いつかなくて。つくれと言うべきでもないと思うんですが、この美観誘導の話でもそうなんです、大体、このストリートをこれぐらいきれいにしよう、こういうまちなみ、景観にしようっていう話があると思うんですが、多分、1本、2本、ストリートの中に入ったところには、規制ができないぐらい自由な活気のあるところはいっぱいあると思うんですが、御堂筋、特に、象徴的なのは道頓堀の看板エリア。あれは、みんなが活気があるほうを追求していったらあんなになって、むしろ見る価値がある景観だっていうところまで、一周回ったというか、ひっくり返ったようなところなのかなという気がします。だから、解放区、自由区みたいなものがあるって、そこは、もしかしたら、それも一定の地域による何か協議があるってということがあってもいいか。もしくは、解放区であるがために、新橋みたいなことになるっていいか。あそこでもいいか。あそこでもいいか。あそこでもいいか。

僕はどちらかというと、景観というよりも自由な商業活動とか、自由な市民のアクティビティとかコミュニティのほうを重視するので、そのような意見になるんですが、この辺と実際の景観の折り合いを考えていけたらと思っています。

○澤木委員長

ありがとうございます。

解放区、自由区っていうのは、なかなかおもしろいかなと思います。道頓堀もそうですけれど、私も前に言ったかもしれない、新世界の通天閣が正面に見えて、手前にふぐの看板とかがあるあたりですね、旧フェスティバルゲートのほうから見る。あそこはやっぱり絵になる風景といいますか、よくガイドブックなんかにも出てきて、大阪らしいなと感じますし、若干、人の多さ、串カツを食べている人の多さは新橋的なところもあるのかなと思ったりもしますが、ああいう人がいる景色というのも一つの景観なのかなと。

建物だけではなくて、そういう部分も何かうまくつくって行って美観という部分だけではない景観形成というのはやっぱり大阪には求められているのかなと思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

○阿部委員

今の、誰のためのということと関わってくるんですけども、やっぱり、景観を考えるときに、住んでみたいまち的な意味で景観を考える、あるいは、そこで働きたいまちみたいな、結構、定住するエリアとしての景観を考える場合と、遊びに行きたいとか、旅行したいというような意味で、景観を考える場合とかなり違ってくるという気はするんです。大阪の場合、アメニティという言葉を使ったときに、やっぱり、そこで暮らす人、そこで働く人にとっての心地よさみたいなものが結構重視されてきたと思うんですけど、それよりもむしろ、これは外国人も含めてですけども、一番大阪に行って、遊びに行きたいと思うような、集客戦略としての景観みたいなことが、これから重要になってくるのか。あるいは、そんなものはどうでもいいのかというのは一つの重要な視点になってくるだろうと思います。

例えば、京都というのは、非常に逆説的な言い方なんですけれども、京都に住んでいない人がイメージする京都のイメージ。つまり、京都人以外が京都に持つイメージに適合的なエリアを、あえて戦略的につくって、祇園というのは、この20年ぐらい多分、そういう方向で整備されていると思うんですけども、あえて、外の人が京都に抱くイメージに適合的なエリアをつくることによって、客を引きつけるといった戦略を持っていると思うんです。

大阪に関しても、大阪に住んでいる人ではなくて、外の人が、例えば、関東の人が大阪ってこんなところだというふうにイメージする、新世界ってまさにその一つだと思うんですけど、そういうものをあえて表に出すことによって、集客戦略として使っていくみたいな、他者の視線に適合的なものをつくっていくという景観戦略もあり得るという気はしています。それと、実際に大阪に暮らしている、大阪で働いている人たちにとって、心地よい、ここに暮らしてよかった、ここで働いてよかったと思えるようなまちというのは、場合によっては、相当ずれてくる可能性があるけれども、その二つをどう調和させていくのかということが、恐らくこういう大都市にとっては、すごく大きな課題になってくるんだろうと思います。

あと、風格と活気ということですけども、大阪って歴史があるまちですし、歴史の基盤の上に今があるわけですけども、一方で、歴史、伝統的なものを尊重しつつ、他方で変化を抑制しない、むしろ、民間主導の変化に対して、それを積極的に奨励していくような、伝統を尊重しつつ変化も誘導していく、そういう伝統と変化のバランスみたいなもの

をうまく目標に設定できたという気がしております。

とりあえず、以上です。

○澤木委員長

ありがとうございます。なかなか、中嶋委員の御意見のように一言でまとめるのは難しそうな要素がたくさん並立で入ってくるという感じがしますけれども。

阿部先生は、住んでみたい、あと、集客的な、行きたいといいますか、二つとおっしゃいましたが、住んでみたいほうには、働いている人たちにも日常空間なので、三つぐらいに分かれるのかもしれませんが、集客戦略としての景観を考えていくのも、先ほどの山納委員の御発言の延長でもありますが、そういう視点は今までのものにはない視点なので、どう位置づけていくのかをいろいろ議論していきたいと思います。ありがとうございます。

結構、大阪らしいというあたりでいろいろ御意見が出てきていますけれども。

どういう点からでも結構ですので、御意見いただければと思います。いかがでしょうか。

では、岡田先生どうぞ。

○岡田委員

今の話を聞いて大変興味深かったのは、先ほどの、3ページの大阪らしい印象の中で、加賀先生がおっしゃった、現状維持か向上かっていうお話と、それから山納さんのおっしゃった解放区云々というお話ですね。ここで大阪らしい景観の印象ということで挙げただいた要素というのは、自然発生的に出てきた景観要素と、過去に統制、あるいは、人間の理性によって、生み出された景観の要素というのがおそらくあって、例えば、まさしく、この雑多とかにぎわいなんていうのは自然発生的な要素ですし、これを意図的に生み出すことができるのかどうか、やっぱり考えなきゃいけないことで、もちろん、山納さんがおっしゃったように、解放区ということで考えれば、それは現状維持につながるのかもしれませんが、そういう要素を担保していけばいいわけですね。ところが、一番左側にある風格とか整然というのは、自然発生的にはなかなかできないもので、おそらく、人間の意図とか、そういったある意味権威みたいなものが入ってこない、生み出すことができないような要素ですよ。大阪の場合は、この2面性があるということ自体が一つの要素なのかなと思いました。

それから、もう一つ、ここに関連しますが、山納さんが新橋の話をされましたけれども、確かにあの辺は大変魅力的だとは思いますが、大阪はあれがいっぱいあるような気もする

んですけどね。新橋だらけっていう。ただ、新橋も、もちろんガード下の独特の空間があって、それで自然発生的に魅力的な空間ができたというのはあるかもしれませんが、例えば、ガード下を利用した居酒屋がぼっと新聞で取り挙げられるとか、あと、これは人為的ですが、エキュートの万世橋ができたりとか、そういう話題のある拠点がぼんとできて、そこから、人のにぎわいが広がってくるというんですかね。

だから、大阪でもそんなところがあれば、山納さんがやってらっしゃるプロジェクトもその一つかもしれませんけれども、ピエロハーバーなんていうのは、もったいなかったですよ。あれはそういう要素になり得たのかもしれないですね。あの道路の下にあった劇場とかレストランが一緒になった、ちょっと変わったものでしたけれども。

○山納委員

グランフロントができた後に、ちゃんと残っていれば。

○岡田委員

あそこは、核になっていた感じがしますけれども。

それから、もう一つは、中嶋先生がおっしゃった、大阪の景観を形成するにあたって下地となっている地理的な条件ですね。瀬戸内につながる海岸があって、これだけの河川があって、運河もあります、そこに人間生活が、自然状況を克服したり利用したりする人工物が重なって景観が形成されているっていうのが、大局的な大阪の景観の成り立ちの仕組みとしてあると思いますので、今ここで挙げられている風格のある都市と、活気云々っていう話の中で、そういう要素が希薄になっていると思いました。ただ、それを考えると、また、キーワードが増える、そのきらいはあるんですけれども、何かその大阪の地形と、地理的条件とそこに重なっている人間生活という意味での景観の大阪らしさというのがあるのかなと思いましたけれども。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございます。

関連してでも、どんどん御意見を出していただければと思います。

じゃ、加賀先生どうぞ、お願いします。

○加賀委員

先ほど、山納先生からもお話がありました、誰が何をどういう目的で利用するのかというところ、あと、その地域でどういうことを考えるのか、例えば、ワーカー、就業してい

る人が使うとか、仕事のために、来客とか、観光、居留があると思うんですけれど、そうになると、その地域をどのような形で成り立つようにするのか、地域戦略みたいなものとの関係になってくると。となると、この景観を考えていく中でも、例えば、こういう支援の中で地域としてまちづくりの将来像を考えているかという資料も踏まえながら考えていく必要があると感じました。

もう一つは、水辺景観は大阪ではすごく重要だと思うんですが、水や川辺を感じるところが実はすごく少ないと思うんです。だから、実際にどこから水辺が見えるのか、橋梁とかそういうところは、かなり水辺景観が見えると思うんですけれど、通りを入ってしまうと全然見えなくなってしまうので、今、水を見られる範囲はどれぐらいあるのか市で検討されている資料がありましたら、御提供いただきたいと思います。

○澤木委員長

今の二つ目のほうは、人間が歩いているアイレベルからっていう意味でいいんでしょうか。可視領域といいますか。

○加賀委員

そういうことです。人のレベルで見ると、河川面が全然見えない、そういうところもかなりあると思いますので。

○澤木委員長

そういうデータは市にございますか。うちの研究室でも昔、水辺を歩いて、見える見えないをプロットした覚えがありますが、そういうのがあれば。水辺景観は今、中之島あたり、東横堀や道頓堀も出ていますが、あといろいろ湾岸部分もあると思いますので。それと、前半でおっしゃられた地域戦略、地域ごとのマスタープランといいますか、都市計画も関係するかもしれませんが、そういったものも提示してほしいという御意見でよろしいでしょうか。今日出てきている中でHOPEみたいに協議会があるところは、それぞれで地域戦略とか、方向性が出ていると思うんですけれど、大阪市として各地域をどういう場所にしていくかという部分ですね。それを、先ほど中嶋委員がおっしゃったようなストラクチャーを重ねて見ていく、そういうことをしたいということですので、よろしく願いいたします。

そのほか、橋寺委員、お願いします。

○橋寺委員

A、B、Cと書かれているCの景観水準の底上げにも関わるかもしれないですけど、既

存の市街化しているところをよりよくしていくのがありますし、もう一つ、7ページで、これからプロジェクトとか、10年ぐらいの間で何かが起こりそうってところ、そのエリアそのものは、その計画で進んでいくと思うんですけど、中ができれば、その周りが再開発されていったり、あるいは、人が来るので新たなことを考えるっていう、波及効果があると思うんです。そういうところで、既存の景観をどうするかというのと連動する、あるいは、しないところもあるかもしれませんが、今から大阪のまちをどういう風景にしていくのかを、少し先も見ながら、波及効果を予測しつつ誘導するのか、自由にするのか。先に手を打つのもいいのかなという気がしました。

特定エリアを見て、景観をよりよくしていくっていうのは、多分、今、ある程度やってきたところを維持する、あるいは、地域で活動が盛んなところをエンカレッジするっていうのが、短期の話では必要なんだろうと思いますし、そういうところの実績が上がってくると、市民の関心も上がる。それをうまく宣伝していかないといけないと思いますし、そういうのが盛り上がってきたところで、同時に、長い目で見ると、折り込まれるとい

いと思いました。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございます。Cの底上げをしていくときの一つの要素として、今後開発があるような場所、そういうものを利用して、その周辺への波及効果なんかにも着目して、まちが変わっていくときに地域の人たちの意識と景観形成をうまく誘導していくような、そういう点も着目すべきではないかという御意見でよろしいですかね。

○橋寺委員

はい。

○澤木委員長

ありがとうございます。

7ページの点線は一応、市の何らかの尺度で拾ってるということですよ。森之宮地区のまちづくりとか、天王寺公園への民間活力の導入とか、ある程度、政策的に展開が見えているところは丸をしてあるっていう理解でよろしいんでしょうか。

○事務局

大阪城につきましては、この春から、TMO、タウンマネジメント事業ということで、民間に管理運営を任せていく方向になっております。天王寺の下のほうに事業者案が書い

てますけれども、これは、経済戦略局で観光魅力向上という施策で力を入れて、これからやろうとしているところになっております。

○澤木委員長

わかりました。

そのほかの御意見いかがでしょうか。

中嶋委員よろしく申し上げます。

○中嶋委員

特定エリアをどう位置づけてどう選んでいくか、4ページで、いろんなパターンをカテゴライズして、景観形成を先導してきた主体で分けていただいて、これはこれで非常に進めやすいので、一つの選択としていいと思うんですけど、特定エリアをどういう視点から選んでいくのか、今後も同じような地域のモデルとなるようなものとしてやっていく考え方と、そうではなくそこだけ特化して先導的にとがらせていく考え方と二つあると思うんですけど、例えば、前者の、カテゴライズされたものから一つ選ぶならその位置づけをきっちりと考えていかなければいけないなど。主体の問題が1点。

あとは、前のページの景観の印象で分けていく。例えば、官主導で都市的でおしゃれなということと、さっきありましたように、何の目的で形成するのか、観光、商業地、あるいは住宅地、そういう目的であるとか、あとは、西宮プロセスみたいに、意思決定プロセスがどういう特性を持っているのか。景観を形成していくために、どういうプロセスを踏むのかというのは、進めていく上で非常に大事な観点だと思うんですけど、住民参加であったり、企業参加であったり、行政も参加していくとか、選ぶときの位置づけをきっちり最初にしておいて、こういうエリアでやっていきますと。それがはっきりしていると、それを違う地域で使うときに、抽出できる知見もたくさんあると思います。とりあえず、特定エリアを選ぶのに先行しているエリアを選ぶのは重要だと思うんですけど、やはり、何を指して選んだのか、どういう特性を持っているところなのかきっちり踏まえた上で選択していただければなと思います。

何が一番、優先かは、今の、どこが主体となって進めてきたかということでもいいと思いますが、その辺のマトリックスというか、景観の構造なのか、意思決定プロセスなのか、何の、誰のための景観なのかを、きっちり書いていただくと、特定エリア幾つ選んでも後々重要なデータとして使えるんじゃないかと思います。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございます。

事務局としては特定エリアのその辺をもっと御意見いただきたいというあたりで、あえて4ページのような出し方をされているのかと思いますけれども、単に主体別の整理だけではなくて、その地区の特性、あるいは、将来に向かっていく景観目標みたいなところで、しっかりとカテゴライズした上で位置づけていく。そこに、景観づくりのプロセスも連動していきますので、地域主導の部分と、官民が共同でやっていく部分、あるいは、官主導で引っ張っていく部分とか、そういうものをリンクさせて一体的にしっかりと整理できるといいですね。

どうぞ。阿部委員、お願いします。

○阿部委員

官主導というか公共によるって、ちょっとひっかかる場所があって、どういうことかという、かつて、御堂筋をどんと通しました、あるいは、ウォーターフロントに大きいものを建てましたというような、公共が公共としてランドマークをつくっていくやり方は、成功例、失敗例もあったわけですね。公共による景観形成っていうときに、自治体がランドマーク的なものをつくって、それを呼び水にして民間が追随していくみたいな発想がこれからも通用するのかなという、もう通用しない気もするんです。そうすると、公共主導といっても、自治体は地域開発に関わるんだけど、自治体が何かをつくるということではなくて、むしろ、地域の地権者との話し合いの中で、地域のあるべき姿を、一緒に考えていくような、もう公共の力だけで何かをつくって、それを引き金にしてという発想は成り立たない時代ではないかなという気がします。

○中嶋委員

私のイメージとしては、大規模で地権者が限られている場合なんかはいいんですけど、やはり、条例で必ず担保しなければいけない部分とか、公共が用意しなければいけないメニューはあると思うんです。公共ができるだけ使いやすいメニューを準備して、それを地域の人たちが、選んでまちに合うものを設計していくっていう、地域住民だけで景観形成がうまくいけばもちろんそれでいいんですけど、やはり、メニューとかツールとして行政が用意すべきものは、依然としてあると思うんです。それがハードではなくて、私としてはお品書きみたいな、こういうまちづくりをやりたいなら市はこういう制度を持っていますっていうのを、地域の人が自分たちでデザインしていくっていう、行政に頼らないでルー

ルをつくらればそれでいいですし、それをオーソライズしたいと住民の方が言ったら、オーソライズする制度を市が持っているっていう、官がつくっていくというよりは、条例できちっと押さえて、罰則規定も設けなければいけないところもあると思いますけれども、そういう使いやすいものを行政が積極的に前面に出していくところと、地域から上がってきたものを行政が受けとめる場所と。それは今、大阪市が運用しているものだと思うんですけど、依然として、行政の役割というのは小さくなってないと思っていますけれど。

○阿部委員

恐らく、全く同じことを言っていると思うんです。例えば、条例で規制していく側面、それから、インセンティブを与えていく、公開空地みたいな仕組みもそうですけど、民が行う開発に対して、うまく行政、公共が関わっていく。そうすることによって、あるまちなみに向けて、民の活動を誘導していくというのが、公共によるっていうところだと思うんです。公的資金を投入するという発想ではなくて、むしろ、インセンティブを与えていく、誘導していくみたいなことによるまちづくりがこれから主流になっていくんではないかなという感想で、中嶋先生の発想とあまりかわらないと思うんですけども、もう、そんなお金はないというのが前提にならざるを得ないというのが、私の気持ちです。

○澤木委員長

山納委員、お願いします。

○山納委員

すごく、具体的な話におりるんですが、6ページのまちなみの分析で、国道2号はいっぱい書いてあって、一番悩ましい場所なんだろうという感じが見えています。ほかのところは何となくやりようがわかるんですが、実際、歩いてみて国道2号はどうするんだろうと。北新地からにじみ出しているものもあったり、福島のほうまで行ったら、既にサインージがついていたり、大分自由な感じになっていて、そもそも、配置とか階数の基準がないと。美観誘導路線だったけど、多分、既存のものがいろいろあって、基準をつくりにくかったんだろうなと。それで、そのまま走っているように見えるのですが、それこそ、地域戦略として、国道2号はどう見せていこうとか、どう開発していこうがあれば、何かできるような気はするんですけど、そうでなければ、国道2号は、外して考えたほうがいいのかなんていうぐらい悩ましいものに見えていて、今、既に、美観誘導路線として選ばれているものの、ここはやめておこうとか、ここは変えようっていうことが今後出てくると思っています。

○澤木委員長

ありがとうございます。今の山納委員に関して、事務局は何かコメントありますか。2号線が美観誘導に指定されている経緯とか、あるいは、ほかの計画も含めた地域戦略あたりで、何かありましたら。

○事務局

この美観誘導路線については、昭和50年代から30年ぐらい経っているんです。この制度をつくったころの大阪のまちなみは、今と比べると、雑多というかごちゃごちゃしている時代で、やっぱり通りごとに美しく、風格あるまちなみをつくりたい思いが、すごく強かったのではないかなと思っています。それで、こういう制度ができて30年たって、その間に花博があって、大阪のまちに緑を増やそうという動きがあったり、それから、最近の幹線道路沿いの建物は、昔と比べると随分工夫していただいているところもありますし、大規模な開発ですと、以前よりも景観をすごく意識して計画していただいていることだって、大阪のまちなみが随分変わってきたなど。その根底には、美観誘導路線という取り組みも大きな役割があったと思っています。

ただ、その一方で、実態と合わないところも出てきているのは事実ですので、今までやってきたことは一つの成果で、継続していきたいという思いはございますけれども、ただ、今後のまちの景観のあり方を見据えたときに、外していくこともあるでしょうし、追加していくことも、当然あるのかなと。今までの取り組みをベースにしながら、一旦リセットして、今後のあり方をここで改めて御議論いただければと思っています。

○澤木委員長

ありがとうございます。

引き続き、また御意見をいただければと思います。

どうぞ、阿部委員。

○阿部委員

そういう意味では、2号線と逆で、例えば、天王寺、阿部野橋とか上本町は、明確には位置づけられていないわけですね。でも、かつて美観地区では入っていたわけですし、大阪のゲートウェイって考えたときに、南から入ってくるときは、天王寺、阿部野橋、奈良からだとか上本町というのは、まちの入り口的な意味があると思うんです。そういうターミナル的で、大阪というまちの入り口的な部分を、どう見せるのかということは、もう少し真剣に考えていいのかなという気がします。

○澤木委員長

それはやっぱり、大阪の地域戦略をしっかりとオーバーレイしていくっていう部分ですよ。先ほどの議論に戻りますけれど、公共が引っ張っていくところで、道筋をつけるためのお金とかハード整備はしないけれども、そういったメニュー、ツールを提示しながら引っ張っていくところは、ある程度重要かなと私も感じています。2号線につきましては、路線でいくべきなのか、北新地なら北新地っていうエリアを設定して、その部分と、西側は道路拡幅したり整備して、また違う雰囲気を持った場所ですので、今の2号線という軸で、我々が歩くと、もうばらばらという感じがしますが、あそこの駅前の特定街区であった1ビルから4ビルがある街区と、その向かい側を統一しろというと、過去の計画的な経緯からも不可能な部分がありますから、そういう特性をうまく合わせるような形で、景観誘導していく方策とか、そういうのも考えていく必要があるのを、私も感じています。

それから、阿部委員が言及された、阿倍野、天王寺、それから、上本町あたり。かつて、美観地区として風格のある、大阪の玄関口としてふさわしい顔を形成していたあたりを、どう考えていくのかっていう。これは、大阪市全体の地域戦略とか、計画とも関連しますが、天王寺は今かなり動いていますし、天王寺公園の活用の話もありましたので、新しいゾーンとして、何らかの打ち出しをしていく要素をかなり持っている場所というふうに、私も思います。

ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

今まで御意見が出ている中では、大阪らしい景観、あるいは、景観形成の基本目標というところを設定していく際に、一つは、いきなり、各特定エリアにおりる前に、大阪の景観の構造とか都市の特性のストラクチャーを、しっかりと構造化して、その中で、下位の計画が位置づけられるような形をつくっていく必要があるという御意見。そのベースとしては、大阪市が、今後各エリアをどういう形にもっていきたいかといった地域戦略とか、そういうものもあわせて考えながら、景観形成、あるいは、景観誘導を図っていくべきだという御意見がかなり出てきていると思います。その中には、もう少し特化して、阿部委員がおっしゃられた集客戦略として、お客さんを呼ぶために景観形成をしていく、これが大阪やねん、みたいな場所をつくっていく戦略もあるんじゃないかっていうお話も出てきました。

それから、委員の認識として共通しているのが、この論点の（4）で言えば、やっぱり

不適合なものが多いエリアというのは、これまでの公共のまちなみをつくろうっていう方向に無理があるといえますか、地域の特性を、一律で何kmにもわたって適用していくというあたりに無理があるので、その辺は、地域特性を見ながら、少し柔軟に考えていく必要があるという認識を皆さんお持ちと、意見の分布を見ていて思います。

それから、実際の景観水準の底上げをしていく、あるいは、これから地域の特徴をつかっていくようなところも含めて、エリアマネジメントのような地域活動、あるいは地域の主体、住民であったり、事業者であったりする場合がありますけれども、そのあたりどうまく景観形成を全体のまちづくりの中で位置づけていくようなプロセスの作り方とか、その中でのインセンティブの設定の仕方、それから、景観誘導目標に向けて担保していく手段とか、そういうものをどう設定していくのかについても御意見をいただいています。一律に適用していくというよりは、いろんな特性によって整理をしながら、こういうところにはこういう方法とか、3次元、4次元に重なっていく感じもしますけれども、そういったものを相対として、大阪らしい景観として、どういう目標、キャッチフレーズをつくれるのか難しいとは思いますが。大阪らしい景観をつくるというようなキャッチフレーズが一番シンプルでぴったりしていて、大阪らしいって何って聞かれたら、それは、大阪に住んでいる人、大阪に来る人の心の中にありますというのが一番いいのかもしれませんが。そのどれにも答えられるスポットが大阪にはきら星のようにありますっていうのが大阪っていう感じもしますけれど。アメニティと美しさだけでは足りない部分があるというのは、共通項かなと思います。

そのほか、時間は12時まで予定していますので、御意見いただくところがあれば、追加でいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですかね、皆さん。また、追加であれば、事務局にお寄せいただいたらいいんですけれども。

1ページに戻っていただきまして、今後のスケジューリングの間隔なんですけれども、1ページの右のほうに、第44回委員会が7月ぐらいに設定されて、その次が9月っていう形で2カ月に1回ぐらい設定されていますけれども、次回は、もう少し具体的な特定エリアにおける景観誘導の方向性ということで、先ほど中嶋委員の御意見にもあった、特化していくのか、カテゴライズしていくのかとか、それぞれの中身の方向性ですね。こういったところを議論していく。それから、特定エリアにおける適切な広告物の誘導についてということで、これはかなりテクニカルな話なので、どこまで細かくやるのかっていうの

はありますけれども、屋外広告物条例との連携などについて御意見をいただく、それから、その次が進め方の話ですけれども、地域主導の景観まちづくりを公共としてどう支援していくべきか、支援策について。それから、市域全体の景観誘導ですけれども、今日はあまり御意見出ていませんが、大規模建築物等のあり方についてということで予定をされています。

そういう細部の議論を踏まえつつ、9月の次々回のこの委員会では、全体の景観施策の枠組みを整理・体系化していった、景観計画・景観条例の改訂方針の方向性を一定、打ち出していきたいという部分、それから、これは、少しテクニカルな話ですけれども、景観重要公共施設、それから、景観重要建造物・樹木、こういったものの活用とか指定についても御意見いただきながら、秋以降、取りまとめについて、たたき台をしっかりと出して議論をしていくといったような形を事務局では想定されています。

今日の御意見と、それから、御欠席の副委員長の嘉名先生、それから、下村委員、田中委員、それと、長町委員ですね、特に、長町委員は前回のときにもこういった、すぐやっつけていけるような戦略的に早く取り組むところが大事だっていう御意見もおっしゃっていましたので、そういう観点からの御意見も、事務局でこの委員会の後、収集いただきまして、その辺を合わせながら、7月の委員会に向けて議論いただく資料をつくっていくことを考えています。

よろしゅうございますか。

事務局、よろしいですか。もう少し、今日時間ありますので、この辺の御意見あればというところがあれば、お示しいただければと思いますけれども。いかがでしょうか。

○事務局

委員長から、7月の次回の説明までしていただきありがとうございます。今日の委員会で、委員の皆様から、いきなりエリアの特定をするというよりは、景観構造、水辺、川辺、そういったところも含めて景観構造を見たり、あとは、市全体の地域戦略を見た上で、考えていく必要があるという御指摘をいただいたところですので、次回は、そのあたりの議論を確認というところから、まず入るのかなと思います。今、この7月は、特定エリアが決まった形で、書いている部分があるので、その確認があるのかなと思っております。また、委員会までに、本日御欠席の先生も含めて、いろいろ御意見をいただきたいと思っております。

あとは、Cの景観水準の底上げで、大規模建築物の誘導になりますけれども、今、市域

全域で敷地面積や建物の延べ床面積を基準に届出をお願いしているところですが、ここについても、今回御指摘いただいた、地域戦略も関わってくるかもしれませんが、これについて、一律の基準で誘導していいのか、委員の先生方の御意見がございましたら、いただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○澤木委員長

いかがでしょうか。このあたりの御意見をお持ちの方。大規模建築物は、景観計画を策定した際に、美観誘導とこの大規模についてだけは市でチェックをしていこうという形で、今の景観計画の中で運用されているものですが、これに関していかがでしょうか。

市のこれまでの運用の中で、大規模建築物について課題はございますか。そのあたりを、御披露いただかないと意見が言いにくいのかなというのがありますけれど。恐らく、一律ではだめだろうと皆さん思っていると思うので。

○事務局

資料1-3の2ページ目をご覧くださいまして、美観誘導の広告物の基準についてですが、御堂筋や堺筋の南の方は、面積超過が多い形になっています。今の美観誘導の広告物の基準は50㎡または10分の1以下となっているんですが、どうしても南の方になると、もともと建物の壁面の面積が小さいこともあって、同じ10分の1でも、南になると条件が厳しくなると。逆に、大阪駅前の阪神のビルですとか、御堂筋の南の大丸のビル、あるいは、難波駅の高島屋といったオレンジで書いている部分については面積が広いので、50㎡以下にする基準が効いてくると。ですので、例えば、40㎡のサインをつけた後に、残りが10㎡しかない。そういう意味では、今一律の基準になっているけれども、今後、面積に応じてといった分析が必要になってくると考えています。

あとは、大規模建築物の届出についての問題点ですが、今現在、あまり大きな問題点を把握できていないんですが、例えば一部のパチンコ店などで見られるサインの大きい建物については問題だと考えています。そのあたりの市民の方の問題意識を把握するために、参考資料1-3の市政モニターアンケートで、大規模建築物の協議、届出について、施策検証をしたいと考えまして、問10で、あなたのお住まいの周辺で大規模な建築物が周辺の景観に悪影響を及ぼしていると思われるものはありますかと。ある場合は、問11で、その用途は何か、どういった建物が問題となっているのか、そういったものを各エリアごとの面積や、建物の基準に反映できればと考えております。

以上です。

○澤木委員長

ありがとうございました。皆さんが日ごろ、大規模建築物に関して何か感じていることがあれば、ここでおっしゃっておいていただければと思いますけれども、一応、モニターアンケートの三、四問を使って、意識を把握しようということになっています。この間10の大規模建築物の注意書きが、お近くの区役所等より大きい建物とご想像くださいというのが、シンプルでわかりやすいのはわかりやすいんですけど。

よろしゅうございますか。各委員からは、特に今日は御意見ないようですので、実際、商業施設で大きな箱物の郊外立地型のものであるとか、遊戯施設系で色の使い方とか、地域景観の中で目立ち過ぎてしまっているものもあるかなと思ったりしますけれども。

この前、大阪隣接の某市で、延床1万㎡以上が全部アセスの対象になるとなっていて、そこで、こういった商業施設が新規立地するときに、企業のアイデンティティのカラーを使うのがどうかという意見が少し出ていました。こういったモニターでまた、そのあたりの調査結果が出てくれば、整理いただければと思いますけれども。

じゃ、一応、御意見はいただいたようですので、まだ予定の時間には少しあるんですけども、今後の景観施策のあり方についての議論をここで、一旦、終えさせていただきたいと思います。

議題に、「その他」がございますけれども、事務局から、何かございますか。

この市政モニターアンケートを見ていただいて、こんなことも聞いておいたらっていう御意見があれば、委員からアドバイスいただくような形にしますか。

○事務局

この市政モニターアンケート、参考資料1-3ですけれども、6月26日に市政モニターにメールにて依頼予定としております。ですので、それまでに問題点等がございましたら、御意見頂戴したいと考えております。

○澤木委員長

これは先ほどの議論に生かしていこうということになりますよね。

○事務局

そうですね、最終的な基準等に反映できればと考えております。

○澤木委員長

ここでいう、例えば、大阪らしい景観というのが6ページですね、一番最後の問15の大阪らしい景観づくりについてで、どのようなまちなみを目指すべきかと思われませんか

ということで、先ほど出てきた形容詞が入っているんですけど、このあたりで、もし、何かいいアイデアがありましたら。まあ、問16でそのまま書いてもらうほうがいろいろ出てくるのかもしれませんが。大阪らしい景観も聞いていますし、その前のページの間13あたりでは、地域のまちづくりということで、地域の景観まちづくりに関する意識といったところを、少し聞くような質問も入れていただいています。

それから、その前の(2)の3ページのあたりは、建築美観誘導制度についての認知度と評価を聞いていますので、ご覧いただき何かお気づきの点ありましたら、早めに事務局に御助言いただければと思います。

事務局からそのほかございますか。配付していただいている資料の中で、共有しておく部分とか、よろしいでしょうか。

山納委員、どうぞ。

○山納委員

質問ですが、暮らしやすさとかアメニティに景観の志向が寄っていたという話があったと思うんですが、今、大阪市内で人口は、ある地域では増えてきていて、マンションが建って、その地域に子育てを支援する施設があったり、買い物施設があったりということが起こってこようかと思うんですが、そういうエリアと、ずっと話をしている美観誘導が重なっている場所はあるのでしょうか。もしくは、住む場所は上本町や谷町6丁目あたりとか天王寺区とか、北区でもここにかかってないようなエリアとなっているのか。住まうためのエリアと、すばらしい景観がマッチしているのかどうか、質問として聞いてみたいところなんです。

○澤木委員長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

参考資料1-4に、建築美観誘導基準がございまして、このうち、なにわ筋の美観誘導の基本方向に書いておりますけれども、「周辺地域においては共同住宅の建設により居住者の増加が予想される。したがって、なにわ筋は、従来の商業、業務のための幹線街路の性格に加えて、都心居住者が楽しく歩けるような街路としていく。」としておりまして、なにわ筋については、居住者向けの空間とすることで、特化した基準となっております。

○山納委員

ありがとうございます。極端な話、すごく景観的にすばらしい居住環境って無電柱化さ

れているとか、今、考えているのと全然違うものかもしれないという感じがあって、多分、地域計画と絡んでくる話だと思うんですけど、大阪として、とっても住みたいエリアをどこまでをどうするかっていうことは、もしかしたら、今進んでいる美観誘導地域以外で、話として挙がってくるのかなという感想を持ったので、質問いたしました。

○澤木委員長

ありがとうございました。その場合、こういった路線の景観というよりは、エリアとして、昔でいうと風致地区みたいな、万代池のあたりとか帝塚山の辺とかですね。緑とか水面、池もあったりして、居住環境としての風趣に富んだっていう、そういった環境形成を目指したような地区指定、これは都市計画の別の制度で、景観そのものではないですが。沿道型のまちなみ整備以外に、居住地として住みやすく快適なまちなみみたいなつくり方は、また、別の基準の設定みたいなのはあると思います。特に、戸建て住宅なんかが多いところだと、そういった緑に関する協定を地域の方々が結んで生け垣を増やされてとか、そんなつくり方もあると思いますので、こういうツールはいろんな場所に対して適材適所な設計をしていくことが大事なのかなと思います。

美観誘導の中では、なにわ筋がマンション立地が進んできているところですよ。全体に、西船場っていうか、堀江とか西区のあたりに集合住宅が増えてきているので、そういう地区の中での景観形成のあり方みたいなものも考えていく必要があるのかもしれない。ありがとうございます。

それでは、一応、これで、議事を全て終えたと思いますので、本日、いろんな御意見をいただきまして、ありがとうございます。今日出ました御意見、それから欠席委員の方にも御意見をお聞きして、それらを踏まえて、次回、今後の景観政策のあり方について、特に今日欠けていた、特定エリアに至るまでの大阪市全体の方針が構造的に見えるようなところを強化をしながら検討を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、進行を事務局にお返しします。

○事務局

澤木委員長、進行ありがとうございました。委員の先生の皆様、本日は貴重な御意見たくさんいただきまして、本当にありがとうございます。引き続き、今後も御協力よろしくお願いします。事務局でまた整理させていただきまして、次回委員会に向けて、資料を整えてまいりたいと思います。

なお、次回ですけれども、7月末ごろを目途に委員会を開催させていただきたいと思っ

ておりまして、後日、日程調整させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、これもちまして、第43回の大阪市都市景観委員会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。